



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

平成29年7月21日

<7月号>

「自律的にやり抜く力」を！

～夢や志を実現する力～

校長 高橋 喜一郎

先日、今年度第1回目の夢・志講演会を実施しました。世界的に活躍するダンサーであり、スタジオ PAL インストラクターの若林美津枝様から、夢や志にかかわるご講演(当校校歌での創作ダンス講習も)をいただきました。若林さんは子どもの頃、何でも「やりたい」という子どもで、母親と『やる』と決めたことは最後までやる」ことを約束して様々なことをがんばり続けたところ、過労でダウン。そこで、ダンス一本に絞って、努力を継続した結果、全国ダンスコンテスト1位、ジャズダンス世界大会では6位入賞という成績を収められたとのことでした。子どもたちは、「あきらめずに最後までやり遂げるとい言葉が心に残りました。」など、夢や志の実現に向けて最後までやり抜くことの重要性を受け止めているようでした。



夢・志講演会 (若林美津枝様)

当校の「立志教育」では、夢・志をもつこととともに、夢・志を実現する力の育成を目指しています。その中核として「自律的にやり抜く力」を位置付けています。自分を見つめ、自分を律しつつ、途中であきらめずに最後までやり抜く力です。授業では、問いや願いからみんなで追求する「めあて」をつくり、解決するまでみんなで考え合うようにしています。毎月の生活のめあてを、自分はどのようににやり抜くのか考え、自分の目標を具体化して取り組んでいます。

やり抜く力こそ人生の成功を決める「究極の能力」であるとする、アンジェラ・ダックワース著『GRIT やり抜く力』という本があります。「人生で何を成し遂げられるかは、『生まれもった才能』よりも、『情熱』と『粘り強さ』によって決まる可能性が高い。」と研究の成果を述べています。そして、子どものころの「ほめられ方」が一生を左右するとして、「成長思考」「やり抜く力」を伸ばす表現について次のように紹介しています。

〈妨げる表現〉	〈伸ばす表現〉
「才能があるね！すばらしい。」	「よくがんばったね！すばらしい。」
「まあ、挑戦しただけえらいよ。」	「今回はうまくいかなかったね。一緒に今回の方法を見直して、どうやったらもっとうまくいくか考えてみよう。」
「これは君に向いていないかもしれない。でもいいじゃないか。他にできることがあるよ。」	「もうちょっとがんばってみようか。一緒にがんばれば必ずできるから。」

「生まれもった才能」よりも、「努力」をほめ、継続に向けて励ますことが大切なようです。この夏休みも、子どもたちが、家庭や地域で自分の決めた課題に粘り強く取り組み、成功体験を味わうことができれば嬉しいです。よろしくお祈りします。